

# 学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾

専門学校 麻生工科自動車大学校

## 目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況 .....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針 .....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿 .....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 .....	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法 .....	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法 .....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告 .....	- 5 -
1. 重点項目について .....	- 5 -
2. 基準項目について .....	- 6 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、専門学校 麻生工科自動車大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 (専務取締役)
業界関係者	堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 (執行役員 人事部長)
業界関係者	田中 裕之	ダイハツ工業株式会社 (くるま開発本部 くらしとクルマの研究部 副部長)
職能団体	寺崎 浩二	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 (指導部長)
高等学校	佐伯 道彦	福岡工業大学附属 城東高等学校 (校長)
地域住民	村上 伸二	東比恵2丁目町内 (元町内会会長)
保護者	西島 潤一	2級自動車整備科 保護者
卒業生	武田 真秀子	平成23年度卒業生
卒業生	杉本 誠	平成22年度卒業生

※区分別、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2022年6月16日（木）15：30 ～ 17：00

場 所：麻生工科自動車大学校 7階講堂

（※一部参加者はオンラインで出席）

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2021年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題や改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （2）今後の解決方向が適切かどうか
- （3）学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

### 5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく達成度による下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

#### 評価基準

- S：達成度がきわめて高い
- A：ほぼ達成している
- B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）
- C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

## Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【重点項目】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業を体系的に配置する。  
自動車業界は現在、自動車の動力の多様化と安全装置の技術革新の変革期にある。そのため業界から必要とされる技術者を育成することを目的に、各学科のカリキュラムをもとにカリキュラムツリーやカリキュラムマップを作成しディプロマポリシーやカリキュラムポリシーとの整合性をとり、体系的な編成を行う。
- ② 教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）化に向けた遠隔・オンライン教育に適したツールを整備し教育用デジタルコンテンツを制作し活用する。  
コロナ禍の影響により遠隔授業が増えた為、対面での授業に比べ、各学科の教職員において学生の理解度把握が困難になってきている。  
遠隔授業下でも学生の理解度を向上させるために、グループで共有された教育用デジタルコンテンツの活用と併せて、自校内でも遠隔・オンライン教育に適したツールの整備を進めていく。
- ③ 留学生に対するサポート体制を整備する。  
昨年以上に留学生の学校生活における様々な悩み、要望に応える事が出来る体制を整備する。

#### 【取組み状況ならびに成果と課題】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業を体系的に配置する。  
カリキュラムは年度開始前に各学科で検討し修正しながら編成・実施している。カリキュラムツリー、カリキュラムマップの作成については、1級整備科のみ完成しており、今後は他学科の完成を目指し体系的な編成を行う。2020年4月の法改正（特定整備）に伴い、急遽それに準じた内容をカリキュラムに取り入れた。また、国より発表された自動車整備士資格制度の変更に伴い、今後はカリキュラム改編の為の情報収集を積極的に行う。
- ② 教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）化に向けた遠隔・オンライン教育に適したツールを整備し教育用デジタルコンテンツを制作し活用する。  
教育用コンテンツはデジタル化に長けた本校教務が先行して制作を行っている。教育用デジタルコンテンツの制作については一部の教員に留まっており、教員全体としての取り組みとしては不十分である。学生の理解度の把握や使用効率を向上させるため、情報収集を行う必要が出てきた。
- ③ 留学生に対するサポート体制を整備する。  
留学生対象にアンケートを実施し、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。2020年に発足した「留学生の会（麻生塾グループ校の一部に所属する留学生で構成する会）」を軸に、アルバイト情報の共有やボランティア清掃活動等留学生が主体となって活動出来る場が増えている。今後も適宜課題を吸い上げ、改善を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・学校側で留学生のご両親への緊急時連絡体制など（言葉の問題等）どのようになっているのかを教えてください。→麻生塾の国際交流センターを通じて母国と連絡が取れる体制が整っている。
  - ・夏休み等を利用して一時帰国した留学生が、そのまま退学するケースがあり退学届けを記入させ帰国させている学校もあるようだ。コロナ禍収束後に一時帰国する学生の対応など教えていただきたい。
- 基本的には帰国はさせないようにしているがやむを得ない場合は往復チケットの確認や保護者への連絡を実施している。
- ・デジタルコンテンツの活用は企業でも進んでおり、教育のみならず、講演などでも使い新しい働き方の一助となっている。遠隔・オンライン教育で注意すべき点は孤立して理解できていないのにカリキュラムが終了してしまうことで、不明な点はその場で確認できるチャット等を利用し理解を確実なものにする必要があると考える。弊社では Microsoft Teams（以下、Teams という）アプリにて講演者と質問のやり取りを行える環境を構築している。
  - ・麻生塾オリジナルプラットフォーム 「Teachare」 = 「Teach（教える）」 + 「share（共有する）」の考え方やネーミングなどとても素晴らしいと感じた。今後のシステム構築や運用方法、教育用コンテンツの充実が楽しみだ。
  - ・留学生と日本の学生と一緒に学び、技術を身につけようとしている姿に感動した。
  - ・留学生の日本語スキルに応じて、様々な配慮がされていることに、優しさを感じた。

## 2. 基準項目について

### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果：  適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

#### 【総括】

定められた「法人の理念」に基づき、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化し「学校の教育理念」「学科の教育目的・育成人材像」を定めている。それらが学校として教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学校構成員に周知している。さらに、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、ホームページにて社会に公表した。

#### 【今後の取組み】

「学校の教育理念」について、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図るため、「法人の理念」「学校の教育理念」「学科の教育目的・育成人材像」を麻生塾本部（以下、本部という）と連携を図った上でホームページにて社会に公表している。変更等があれば随時対応する。

#### 【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

本部の運営方針を共有し、それに基づき学校の運営方針を策定し周知している。学校の運営方針に沿った事業計画を部門長にて策定し共有するとともに全体へ周知している。定例のリーダー会議や全体会議といった意思決定システムを整備し、活用している。また、麻生塾システム・デスクネットを有効活用して就業規則やスケジュール管理や伝達事項を共有し、業務の効率化を図っている。教職員の募集・採用は本部の人事グループと連携し対応している。また昇格人事については業務遂行シート、目標達成シートを使い面談を実施し、合意に基づいた評価のうえで行っている。

学校業務については学内の事務局の他に本部内に人事、経理、留学生窓口など様々な支援組織が設置され、十分に機能している。また、教職員は意欲・資質の向上を図るために本部及び外部主催の研修に計画的に参加している。

また、人事に関してはコンプライアンス体制の強化に加え、人事制度・評価制度を教職員の納得性の高い制度に改定するための地盤固めとして、労働時間管理体制・雇用管理体制の再構築を行った。

【課題】

コロナ禍において情報の伝達手段が複数にわたる（対面、メール、Teams等）ことで伝達方法の統制が困難な場面も出てきた。人事に関しては、現行制度と社会情勢の間に乖離が見られる部分が出てきている。

【今後の取組み】

コロナ禍に伴う社会環境の変化とともに勤務形態においてもテレワークの導入などが進んでおり、働き方の改革へも柔軟に対応している。

情報システム化や意思決定システムにおいては現在 Teams の活用について教職員の理解も深まってきており、さらなる活用を図って行く予定である。人事に関しては、2021年度で、新制度構築の基盤が出来上がってきたため、2022年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理再構築を行っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・対面から在宅勤務が増えることで人事評価が難しくなっていると一般的に言われている。年間の個人目標を3か月ごとの決め細かい目標に落とし込み、随時振り返り、判定することで補完できると考える。



小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S	S
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S	S

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

・教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

学則及び成績評価、進級および卒業に関する規程で、教育目的および育成人材像に基づいた進級・卒業要件を明示し、学校構成員に周知している。また、成績評価及び卒業・進級条件についてはホームページを通じて社会に公表した上で定期的に検証を行っている。

また、カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラム及びシラバスを明示し学校構成員に周知している。また授業科目等の概要はホームページを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【今後の取組み】

社会や時代背景により育成する人材像は流動的に変化する為、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会にて企業・業界団体の意見を取り入れ、継続してニーズに合った教育課程を編成・実施していく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

- ・教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

#### 【総括】

- ・教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。
- ・業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。
- ・専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で学科・実習などの教育方法および適切な時間配分により十分な学習指導を行えているが、体系的なカリキュラムマップの作成までは至っていない。
- ・授業はシラバスに基づいて展開されており、シラバスをデータとして保管した上で学校構成員に周知を図っている。さらにインターネット上で専門知識の学習が行えるソフトウェア（myトレーニング）のID・パスワードを入学者へ事前に配布しリメディアル教育を行っているが、実施においては一部の学科に留まっている。
- ・専攻分野における実践的な職業教育については、全学科対象（整備科1, 2級は2社、自動車工学・機械設計科は1社）に企業の非常勤講師による授業を実施している。また企業でのインターンシップについても全学科で定期的実施している。
- ・各学科1年次より就職実務の授業内で、企業からの職種理解セミナーやOB・OG体験談など学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促している。

#### 【課題】

教育課程の編成・実施方針に基づき、業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を適切に提供していく上で、時代に応じたカリキュラムの見直し及び教材、設備の整備が適宜必要である。

#### 【今後の取組み】

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で業界のニーズや新技術情報をタイムリーに収集し、計画的にカリキュラムの見直し及び教材、設備の整備を行う。

学科毎の特性に合ったカリキュラムマップの作成を行う必要がある。1級整備科については完成しているので今後は他学科の完成を目指し体系的な編成を行う。

#### 【委員の方からのご意見】

- ・自動車の電動化のスピードはすさまじく、求められる知識も大きく変わってきている。電動の知識を得ることのできるカリキュラム更新が重要だと考える。
- ・在校生のスキル向上やキャリアデザインにむけたバックアップ体制が素晴らしいと、いつも感じている。

- ・教育の評価を適切に行っているか。

**【総括】**

授業評価においては全教員及び非常勤講師を対象に年2回教師アンケートを実施している。アンケート結果については本部が集計し、分析後に結果を通知している。状況によって改善を図る目的で部門長による授業見学及び個別指導を実施しているが、その後部門長から各教員へのフィードバックについては口頭での伝達に留まっている。

また、新任の教員対象にチューター制度を活用し、非常勤講師には担当教員制度を導入して、教育の評価と指導を行っている。

**【課題】**

授業内容の改善については都度修正を図りながら行う必要がある。

**【今後の取組み】**

教育課程編成委員会で上がった意見を基に教育改善に向けて検討を図る。また、授業の課題や改善に関するフィードバックについては可視化できる状態にしていく。

**【委員の方からのご意見】**

- ・PDCA サイクルがきちんと回っていると感じた。

- ・成績評価と単位認定を適切に行っているか。

**【総括】**

授業評価は、「期末成績・評価実施要領」を作成し、評価基準の統一を図って行っている。また、定期試験や平常点の結果については成績入力表へ入力し、可視化を行い、成績判定内容の誤差をなくした。また、授業時数及び授業方法により単位数を決定し、科目履修・課程修了を認定している。さらに学則及び成績評価、進級および卒業に関する規程に基づき進級・卒業判定を行っている。

**【今後の取組み】**

成績評価については、職業実践専門課程における教育課程編成委員会にて期末試験や单元ごとに実施する授業内容確認テストについても意見を頂き、さらに評価精度を上げていく。

**【委員の方からのご意見】**

- ・自動車整備振興会が実施する技術講習会においても豆テスト（宿題）を実施することで、成績が向上した。大変良いことだと思う。
- ・成績評価を可視化して情報共有し、評価基準の統一（判定内容の誤差をなくした）をされたことで、さらに信頼感が向上したと思う。

・教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

**【総括】**

法令に則りかつ学校の理念・教育目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築し、組織体制を整備している。また、教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のために学内・企業団体が実施する研修へ計画的に参加することでスキルの向上を図っている。

**【課題】**

企業団体が主催する教員向けの研修について、定期的に教職員が参加しているが、人によって参加頻度にばらつきがある。

**【今後の取り組み】**

学内・企業団体が実施する研修への教職員の参加についてはオンラインを含め、計画的に調整していく。

**【委員の方からのご意見】**

・(委員の所属する) 本校でも教員の専門性や指導力等の維持、資質向上が課題であり、見習っていきたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B	B
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	A	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

年度開始前に学科会議で前年度の教育活動の結果や評価を考慮し、学生教育に関する目標設定を行い、キックオフ会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。

就職に関しては各学科について月ごとの目標を設定している。内定状況や学生の内定先など就職の動きが教職員で共有できるシステムを作成し、データの管理を行っている。就職担当と担当教員で毎週実施している定期会議やミーティングを開き、学生の就職状況に関して検証を行い、教職員に対して学科会議などで定期的に報告を行っている。また、学校のパンフレット・ホームページ・オープンキャンパス・入試説明会・保護者会などで外部に対して就職実績を公表している。

評価・成績・資格・検定・退学に関しても担当者会議を設け目標設定を行い、結果や結果に対する検証を文書化し記録するとともに教務会議などで教職員に共有している。

卒業生の専攻分野における社会的評価については、毎年企業に入社後1,3年目の卒業生を対象としたアンケートを実施し、キャリア形成への適応性や効果を確認している。また、例年卒業年次学生を対象に早期離職防止セミナーを実施していたが、コロナ禍の影響により実施が出来なかった。

【課題】

コロナ禍の影響により遠隔授業が増えたため、対面での授業に比べ、各学科の教職員において学生の理解度把握が困難になってきている

【今後の取組み】

遠隔授業下でも学生の理解度を向上させるために、グループで共有された授業ツールの活用と併せて、自校内でも遠隔・オンライン教育に適したツールの整備を進めていく。

【委員の方からのご意見】

- ・DX化をどのように進めるかは分からないが、資料作りが大変だろうと思う。授業+各機材を使用している資料作りは、教員の方々の負担が大きそうだと思う。
- ・(委員の所属する)本校でも、対面の良さと、デジタル化がもたらす新しい可能性を最大限に引き出すハイブリット型授業の実施体制の構築は必要だと考えている。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	B	B
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A	A
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A	A

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。また、学生相談に関してはカウンセラー及びハラスメント委員を配置している。また、学生の経済的側面に対する支援制度として（独法）学生支援機構及びグループ独自の奨学金制度、学費分納制度を整備し、学生へ案内のうえ、希望者には適正な審査を行っている。学生の健康管理については、定期的な健康診断の実施やAEDの設置など管理体制を整備している。また、学生の生活環境への支援として直営寮・提携寮を設置している。

保護者とは担任を軸に保護者会や三者面談などを実施し、連携を取っている。さらに、卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった支援体制を整備している。

その他にも学生の課外活動に対する支援として各クラブ活動に顧問を置き、課外活動の活性化・支援を行っている。

【課題】

留学生を中心にコロナ禍の影響でアルバイト活動ができず、経済的に困難な学生が増えた。

【今後の取組み】

アルバイト情報については環境の変化に応じて学生へ周知できる環境を整える。留学生については留学生の会を通じたアルバイト情報の共有を促進する。

【委員の方からのご意見】

・フードシェアリングなど実践しており、すごいと思う。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	A	A
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S



基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

コロナ禍の影響から遠隔授業の機会が増え、それに伴い学内でのオンライン授業用の環境整備に取り組んだ。図書コーナーについては、学生の使用頻度も低い事もあり、管理体制が整っていない状況である。

【課題】

オンライン授業の頻度が増加したが、Wi-Fi環境の整備が間に合っておらず、運用時に支障をきたす場面が多かった。

【今後の取組み】

Wi-Fi環境については備品の補強し改善を図ったが、円滑に授業実施するためにはさらなる整備が必要である。今後もインターネット環境の整備や備品購入等、教育環境の整備を図って行く。DX化推進に伴う機材整備もあわせて、引き続き教育環境の改善に取り組んで行く。

【委員の方からのご意見】

- ・機材等の環境は素晴らしと思う。これからも、維持向上に、取り組んでいただきたい。
- ・図書館のDX化によりどこでもPCで情報をとれる環境が望ましいと考える。

- ・教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

学生には、学外の実習施設である（一社）福岡県自動車整備振興会にて定期的に研修を受講させている。1級自動車整備科の学生のインターンシップについては4年次に内定先企業を基本として体験実習を実施している。

自動車整備科の設備については企業より提供頂いた車両を使って新たな整備実習を授業に取り入れることが出来た。また、防災、耐震の備えとして、外壁の修繕を行った。

【課題】

コロナ禍の影響により、当初予定していた研修旅行がすべての学科で実施出来ず、通常授業を行うに留まった。

【今後の取組み】

教育環境に関しては時代背景を考慮しつつ、意義や教育課程上の必要に応じて適切な環境を提供する。またインターンシップ先や研修旅行の行き先については意義や教育課程上の位置づけを確認しながら代替案を含め検討し、決定していく。

【委員の方からのご意見】

- ・自動車整備振興会が主催する自動車整備大学校の学生を対象とするインターンシップ制度を利用し、今後の就職先（專業工場の雰囲気なども感じて貰い）の選択肢を広げるため活用していただければと思う。  
補足：1級自動車整備科のインターンシップを除く。
- ・スキル向上やモチベーションアップのための取組みが、きちんとなされていると感じた。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	B	B
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。

募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っている。

また、学生納付金については、法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定がなされている。

【課題】

オンラインの普及により、多様な募集方法や入学者選抜方法への対応が必要となるため、適宜見直しを図る必要がある。

【今後の取組み】

麻生塾グループ校及び各種専門学校の情報を収集し、アドミッションポリシーに則した募集活動を行っていく。

学生給付金についても、引き続き妥当な給付状況となっているか確認に努める。

【委員の方からのご意見】

・いつもお世話になっている。今後ともよろしくお願ひしたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。予算計画を策定し、必要に応じて前年度対比分析を行っている。重要な差異が生じた場合には、原因の特定や問題点の把握を行い、適切に対応している。

監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われている。

財務情報は、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による財務分析等の取り組みを継続的に行っていく。その取り組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定的に遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令等遵守に関する啓発や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規程等に従い学校運営を行っている。法令改正等に応じた法令等遵守に関する規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生時に対応する通報システム等の体制も整っている。

【今後の取組み】

全教職員が定期的に法令遵守に関する研修会へ参加し、法令遵守への理解を深めていく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果：       適正      

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。  
 また、教育情報を積極的に公開しているか。

**【総括】**

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取組みを行っている。また、自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

**【課題】**

自己点検・評価の重点項目については教職員全体への共有が年度初めのみとなっており、教職員間で目標意識の差がみられるため、効率的に改善を行えていない。

**【今後の取組み】**

自己点検・評価の重点項目については改善策の進捗状況・実施結果を全教職員に全体会議の中で定期的に共有する。

**【委員の方からのご意見】**

- ・確実に実施されていると感じている。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学生の地域貢献活動として、教育内容を生かし、小学生を対象に職業体験イベントを開催している。また、「留学生の会」にて地域清掃のボランティア活動を行った。

【課題】

ボランティア活動が限られた組織内での実施に留まった。

【今後の取組み】

ボランティア活動については対象範囲を広げるなど新たな取り組みを常に検討していく。

【委員の方からのご意見】

- ・ぜひ、地域貢献の継続をお願いしたい。また、新たに中学校とのイベント等の地域貢献活動ができることを期待する。
- ・地域貢献活動は、学生の意識、教養のためにも重要な活動だと考える。
- ・高校でも同じような課題があり、ボランティア活動が単発で終わらないように、参加者の事前・事後ミーティングを行い、満足感や達成感の向上と対象範囲の拡大を図っているところである。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
11-1-1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A	A

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。また、ビザの更新手続きに対応できる有資格者を学内に配置している。

留学生に対する相談体制として、各クラスに担任及び担当主任が配置されているものの情報収集するツールとしては全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまっている。

海外留学プログラムに対する支援として学生対象に年に1回海外留学説明会を開催している。さらに在校生向けに無料の語学講座も開催している。

【課題】

留学生の支援組織として「留学生の会」を発足したが、一部の学生間でのコミュニケーションに留まっている状況である。

【今後の取組み】

「留学生の会」を通じて、学校が留学生間の課題や要望をさらに支援出来るようにしていく。

【委員の方からのご意見】

- ・今年の自動車整備技能登録（学科）試験において学科試験中、自動車整備士一種養成施設の外国人留学生二人の不正行為を試験監督者が発見し、受験者は不正を認め、受験停止となり令和7年3月28日まで同登録試験を受験できなくなった事案が県外で発生した。試験時においては、疑われるような行為等はないように徹底した指導をお願いしたい。
- ・留学生に対する様々な配慮・対応や、在校生の海外研修旅行が実施された写真・掲示物（コロナ禍前）などから環境の良さが伝わってきた。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
12-1-1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S	S
12-1-2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上